

第 8 期 pES club シナリオ 2

平成 21 年 2 月 22 日
横浜市立市民病院 医療安全管理室
五十嵐 俊
東京北社会保険病院 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

あなたは名羅手部総合病院に勤務する薬剤師です。

昨夜肺炎で入院した勝手秀樹さん（60 歳男性）の抗菌薬の投与方法について、後期研修医の名家良成先生から相談を受けました。勝手さんは、入院時の喀痰でグラム陽性双球菌が見え、尿中肺炎球菌抗原(+)の結果から、肺炎球菌性肺炎と診断されました。勝手さんは特発性血小板減少性紫斑病の既往があり、15 年前に脾臓摘出の手術を受けています。そのため名家先生は重症化と肺炎球菌の薬剤耐性を懸念して、VCM の投与することにしました。

名家「昨夜入院した肺炎球菌性肺炎の勝手さんなんですが、PRSP の可能性もあるし、ITP の既往があって、脾摘もしている患者さんなので、VCM を投与したいと考えています。どうすれば良いですか？」

あなた「重症化すると怖いですからね、早速投与計画を立てますね。…この方、ワクチンは受けていなかったのですか？」

名家「そうなんです。脾摘をしている上に、ステロイドも 1 日 5mg 飲んでいるんだし、もっと自分の健康に気を遣って欲しいです。聞いてくださいよ、昨日の晩だけで肺炎球菌の肺炎が 3 件も入ったんですよ。まったく勘弁して欲しいです。肺炎で入院する人は、ほとんどワクチンを打ってないんですよ。啓蒙が足りないんじゃないのかな。WHO や CDC でも接種を推奨しているんだから。うちの先生達も国際的に認められた治療は積極的にやるべきですよ」

あなた「そうですねえ」

名家「そうだ、一緒にワクチンの接種を院内で勧めていきましょうよ。なんか良いチラシとか説明書とか作れないかなあ。各科の先生には僕からも伝えるから」

あなた「わかりました。協力しましょう！」

あなたは名家先生と意気投合し、院内で肺炎球菌ワクチンの接種を積極的に働きかけるため、「肺炎球菌ワクチン接種のお勧め」というチラシを作成しました。睡眠時間を削って作ったチラシはなかなかの出来栄で、自分でも満足しています。しかし、薬事委員会の委員でもある内科の楠力雷先生に文面のチェックをお願いしに行ったところ。...

楠力「何なに、肺炎球菌ワクチン！？あんなものこれっぽっちも効かないよ。それに、自費であんな高価な薬が使えるわけがないじゃないか。こんなチラシを作る暇あったら、もっと勉強してくれよ。君には期待しているのだから」

院内でも薬物治療に関しては信頼を寄せている 2 人の医師が全く反対の事を言っているので、あなたは訳がわからなくなっていました。しかも自信作をゴミ扱いされてしまい、かなり落ち込んでいます。一部始終を見ていた先輩が「じゃあ、一緒に調べてみよう」と優しく声をかけてくれました。あなたは溢れ出る涙をこらえつつ、肺炎球菌ワクチンの肺炎予防効果について調べてみる事にしました。

第 8 期 pES club シナリオ 2 (追加シナリオ)

平成 21 年 2 月 22 日
横浜市立市民病院 医療安全管理室
五十嵐 俊
東京北社会保険病院 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

勝手さんは身長 168cm, 体重 68kg で, 入院時のバイタルサインは, 意識清明, 体温 40.4°C, 血圧 113/60, 脈拍 111 回/分・整, 呼吸数 24 回/分, SpO₂ 90% (room air) でした. 入院時の採血では WBC 23,600, CRP 2.5 で, 胸部 X 線にて左下肺野に浸潤影が見られ, 喀痰のグラム染色でグラム陽性双球菌が認められました. また, 尿中肺炎球菌抗原 (+), インフルエンザ迅速検査 (-), 尿中レジオネラ抗原 (-) でした.

勝手さんは特発性血小板減少性紫斑病のフォローで, 現在もプレドニン (5mg) 1錠分1朝食後を服用しています. その他の薬は常用しておらず, サプリメントも服用していません. これまで肺炎を起こしたことはなく, 肺炎球菌ワクチン接種の既往もありません.

名家先生は肺炎球菌性肺炎を疑い, 酸素投与 (鼻カヌラ 2L) を開始するとともに, 抗菌薬の感受性をチェックするための培養検査を提出した上で, 抗菌薬を投与することとしました. 勝手さんには脾臓摘出の既往があり, ステロイドも常用している事から, 免疫力が低下していると考え, 耐性菌も視野に入れて VCM の投与を決定しました. まず VCM を 1g 点滴静注し, 過敏症などの問題が無い事を確認したところで, 今後の VCM 投与について相談するためにあなたに電話をかけてきました.

第8期 pES club シナリオ 2 (再追加シナリオ)

平成 21 年 2 月 22 日
横浜市立市民病院 医療安全管理室
五十嵐 俊
東京北社会保険病院 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

肺炎球菌性肺炎に対する治療方針は名家先生が立てました。PRSP である可能性も考慮に入れて、VCM の投与を開始する事と決め、初回投与として VCM 1g を 1 時間かけて点滴静注しました。病院では VCM が TDM を実施するべき薬剤とされているため、2 回目以降の投与方法（用法・用量）について、薬剤師であるあなたに相談する事にしました。また、電話を受けたときには未確認でしたが、CTRX も併用されていることが判明しました。

治療に先立って実施していた細菌検査の結果の報告が、治療開始から 3 日後に届きました。結果は PSSP で幸いにも CTRX への薬剤耐性はありませんでした。また、喀痰の検査に加えて血液培養も実施されましたが、こちらからも PSSP が検出されました。そこで名家先生は VCM の投与を中止し、CTRX 単剤での治療を継続する事としました。

名家先生は、冬場ということも影響してか、当直のたびに肺炎の急患を受け持つ事も多く、是非ワクチン接種を勧めていきたいと考えています。

名家「そろそろお願いしていた、ワクチンのチラシできているかな。そうだ、今日は珍しく早く上がれそうだし、帰りがけに薬剤部に寄って様子を聞いてみよう」

勝手さんの明日の点滴の指示を検討しながら、そんなことを考える名家先生でした。あなたが名家先生と楠力先生との板ばさみで頭を抱えているとは夢にも思っていない。

あなたは、肺炎球菌ワクチンの効果について先輩と相談するため、調べて自分なりの考えをまとめてみることにしました。